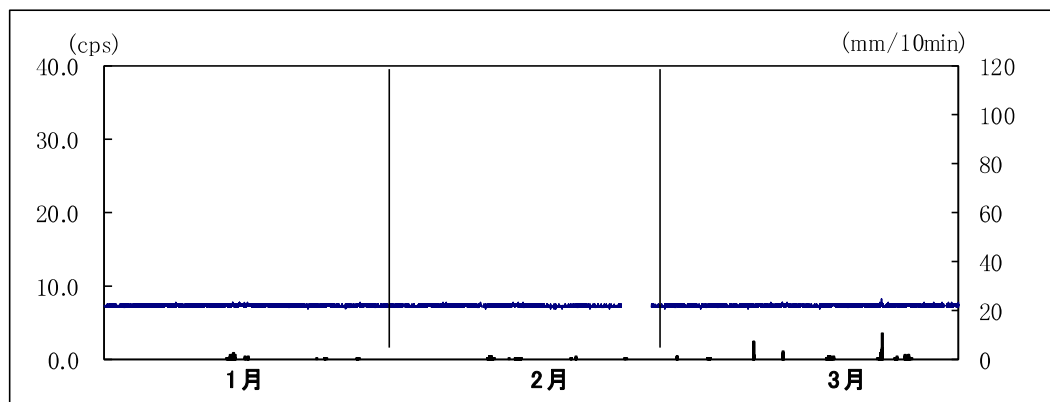
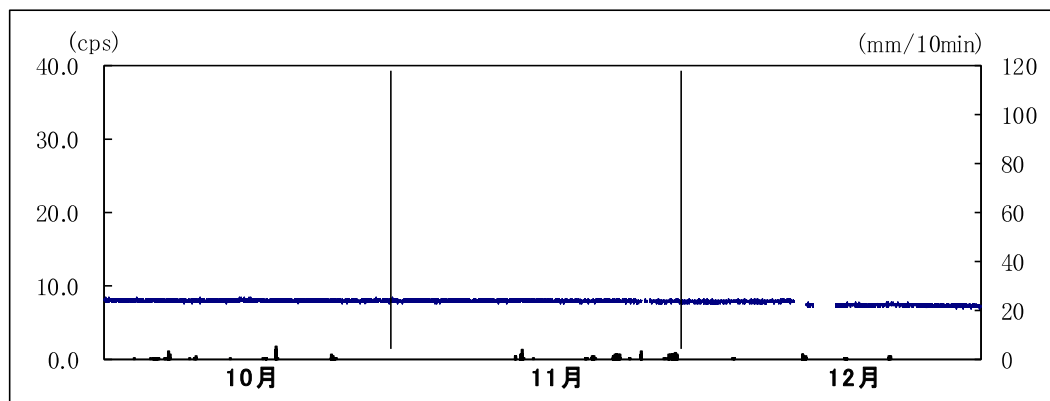
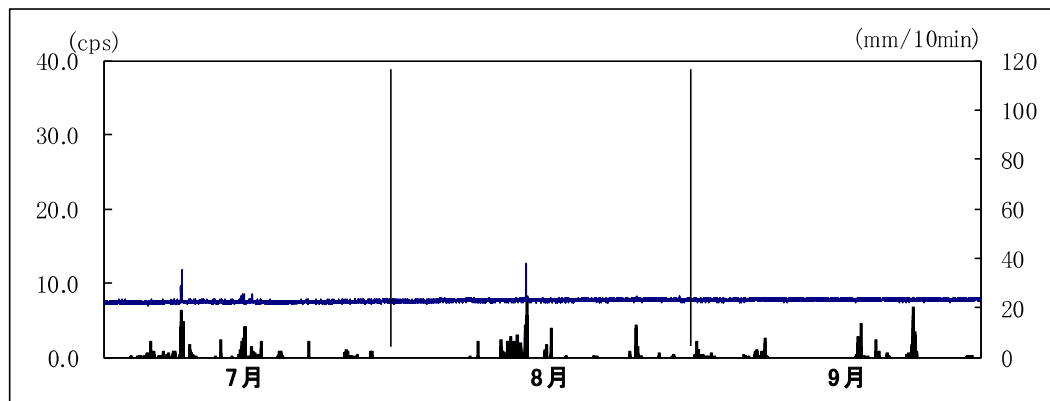
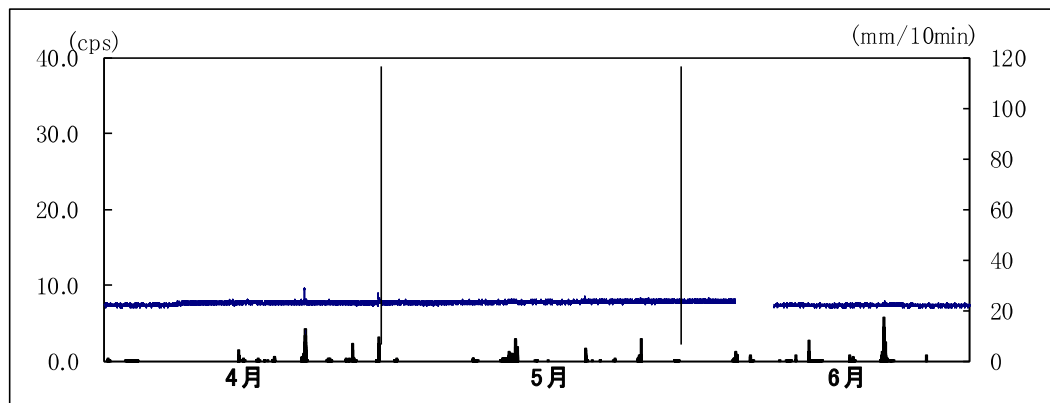
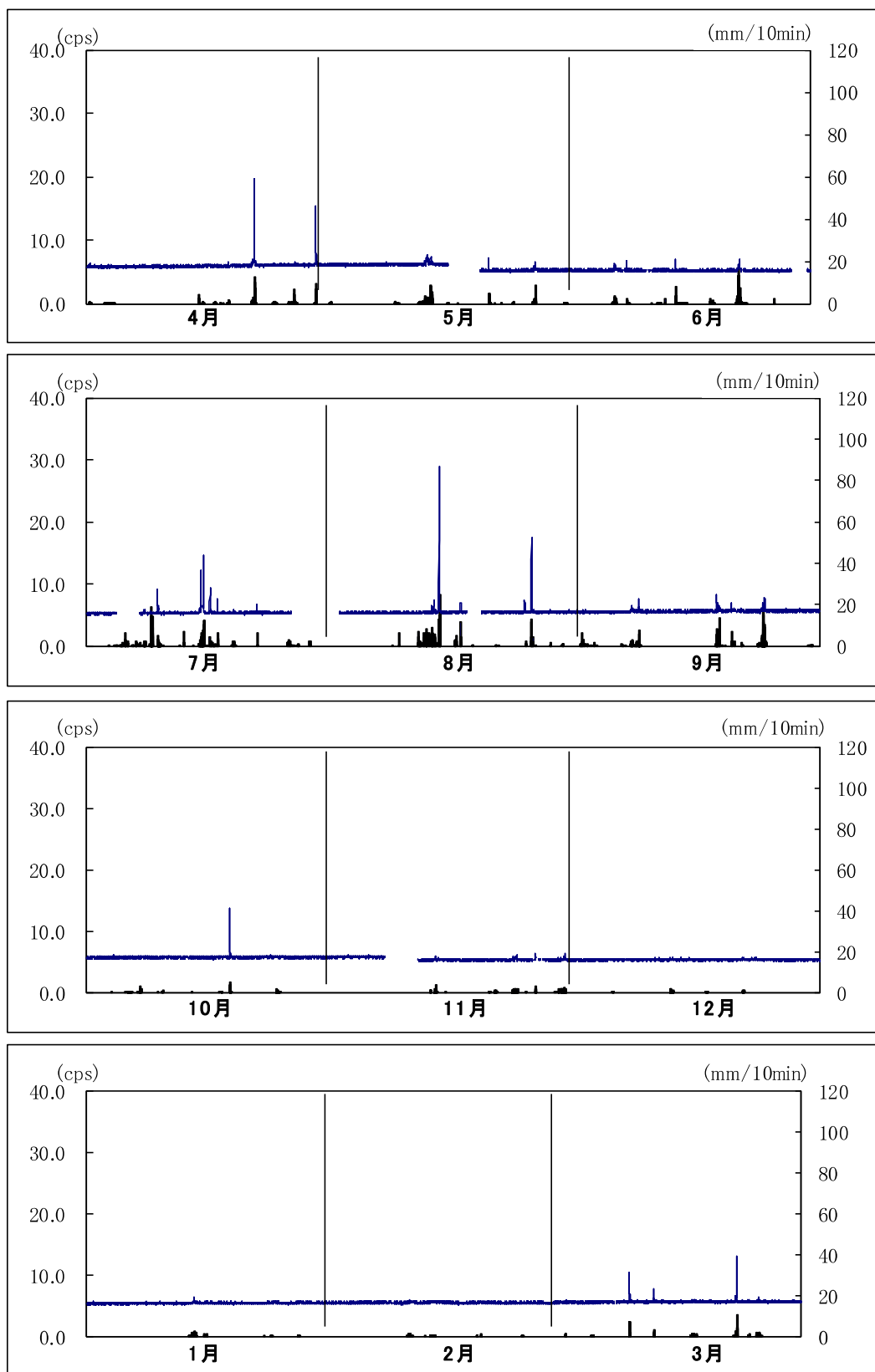


4号機放水口モニタ



※上線は全計数率, 下線は降雨量

5号機放水口モニタ



※上線は全計数率, 下線は降雨量

(4) 補足参考測定

ア 積算線量

単位：mGy

測定地点名	測定値							
	令和4年3月17日～ 令和4年6月15日 (91日積算)		令和4年6月16日～ 令和4年9月13日 (90日積算)		令和4年9月14日～ 令和4年12月13日 (91日積算)		令和4年12月14日～ 令和5年3月14日 (91日積算)	
	県	中電	県	中電	県	中電	県	中電
芹 沢 (御前崎市)	0.14	0.15	0.14	0.15	0.15	0.15	0.14	0.15
西 山 (御前崎市)	0.15	0.15	0.14	0.15	0.15	0.15	0.14	0.15
上比木 (御前崎市)	0.15	0.16	0.15	0.16	0.16	0.16	0.15	0.16
合戸東前 (御前崎市)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
門屋石田 (御前崎市)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
中 尾 (御前崎市)	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17
朝比奈原公民館 (御前崎市)	0.14	0.15	0.14	0.15	0.15	0.15	0.14	0.14
旧地頭方中学校 (牧之原市)	0.15	0.16	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
菅山保育園 (牧之原市)	0.15	0.15	0.14	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
鬼女新田公民館 (牧之原市)	0.14	0.15	0.14	0.15	0.15	0.15	0.14	0.14
千浜小学校 (掛川市)	0.15	0.16	0.15	0.16	0.16	0.16	0.15	0.15
東小学校 (菊川市)	0.14	0.15	0.14	0.15	0.15	0.15	0.14	0.15

イ 環境試料中の放射能
(7) 機器分析 (γ線放出核種)
a 降下物

単位：Bq/m²

採取地点名	採取期間	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾	⁷ Be ²⁾
御前崎市 池新田	R4年 4月 1日 ～R4年 5月 1日	県	* ³⁾ (0.051) ⁴⁾	*	0.050 (0.042)	*	210 (4.3)
		中電	*	*	*	*	207 (4.0)
	R4年 5月 2日 ～R4年 5月 31日	県	*	*	*	*	244 (4.2)
		中電	*	*	*	*	239 (4.1)
	R4年 6月 1日 ～R4年 6月 30日	県	*	*	*	*	122 (3.3)
		中電	*	*	*	*	165 (3.4)
	R4年 7月 1日 ～R4年 7月 31日	県	*	*	*	*	332 (5.4)
		中電	*	*	0.043 (0.041)	*	362 (4.9)
	R4年 8月 1日 ～R4年 8月 31日	県	*	*	*	*	166 (3.8)
		中電	*	*	*	*	163 (3.5)
	R4年 9月 1日 ～R4年 10月 2日	県	*	*	*	*	134 (3.4)
		中電	*	*	*	*	153 (3.4)
	R4年 10月 3日 ～R4年 10月 31日	県	*	*	*	*	156 (3.4)
		中電	*	*	*	*	186 (3.5)
	R4年 11月 1日 ～R4年 11月 30日	県	*	*	0.33 (0.070)	*	171 (3.8)
		中電	*	*	*	*	186 (3.6)
	R4年 12月 1日 ～R5年 1月 3日	県	*	*	*	*	19.7 (1.3)
		中電	*	*	*	*	22.6 (1.4)
	R5年 1月 4日 ～R5年 1月 31日	県	*	*	*	*	62.9 (2.3)
		中電	*	*	0.060 (0.045)	*	60.8 (2.2)
	R5年 2月 1日 ～R5年 2月 28日	県	*	*	*	*	61.3 (2.1)
		中電	*	*	*	*	61.1 (2.0)
	R5年 3月 1日 ～R5年 4月 2日	県	*	*	*	*	151 (3.5)
		中電	*	*	0.047 (0.043)	*	150 (3.3)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) ベリリウム 7 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

b 指標生物（松葉）

単位：Bq/kg 生

試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾	⁴⁰ K ²⁾
松葉	御前崎市 池新田	R4 年 6 月 21 日	県	* ³⁾ (0.033) ⁴⁾	*	*	0.113 (0.029)	*	48.7 (1.7)
			中電	*	*	*	0.151 (0.028)	*	50.3 (1.5)
		欠測 ⁵⁾	県	—	—	—	—	—	—
			中電	—	—	—	—	—	—
		欠測	県	—	—	—	—	—	—
			中電	—	—	—	—	—	—
		欠測	県	—	—	—	—	—	—
			中電	—	—	—	—	—	—
	御前崎市 平場前	R4 年 6 月 21 日	県	* (0.035)	*	*	0.062 (0.026)	*	43.2 (1.7)
			中電	* (0.034)	*	*	0.052 (0.028)	*	47.3 (1.6)
		R4 年 9 月 6 日	県	* (0.039)	*	*	0.085 (0.027)	*	69.1 (2.0)
			中電	* (0.030)	*	*	0.083 (0.027)	*	71.8 (1.7)
		R4 年 12 月 16 日	県	* (0.034)	*	*	0.083 (0.025)	*	68.0 (1.9)
			中電	* (0.041)	*	*	0.077 (0.026)	*	71.6 (1.7)
		R5 年 3 月 8 日	県	* (0.036)	*	*	0.070 (0.023)	*	69.0 (2.0)
			中電	* (0.035)	*	*	0.069 (0.029)	*	69.4 (1.8)
	御前崎市 白砂	R4 年 6 月 21 日	県	* (0.039)	*	*	0.038 (0.022)	*	56.4 (1.9)
			中電	* (0.032)	*	*	0.039 (0.026)	*	57.1 (1.6)
		R4 年 9 月 6 日	県	* (0.041)	*	*	0.077 (0.026)	*	73.0 (2.1)
			中電	* (0.042)	*	*	0.077 (0.027)	*	74.2 (1.8)
		R4 年 12 月 16 日	県	* (0.038)	*	*	0.055 (0.025)	*	82.7 (2.1)
			中電	* (0.041)	*	*	0.057 (0.032)	*	80.5 (2.1)
		R5 年 3 月 8 日	県	* (0.041)	*	*	0.054 (0.025)	*	80.5 (2.1)
			中電	* (0.034)	*	*	0.029 (0.026)	*	81.2 (1.9)

注 1) 「その他」は、コバルト 60、ヨウ素 131、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注 2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注 3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注 4) () 内は、検出下限値を示す。

注 5) 池新田は、松の高木化により、第 2 四半期以降の採取を中止した。

c 海 水

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾
菊川河口	R4 年 6 月 8 日	県	* ²⁾ (3.5) ³⁾	*	(3.1)	*
		中電	*	*	(2.5)	*
	R4 年 8 月 2 日	県	*	(3.5)	(3.0)	*
		中電	(2.9)	(3.0)	4.0 (3.0)	*
	R4 年 12 月 13 日	県	(2.8)	(3.2)	(2.3)	*
		中電	(2.4)	(2.3)	(2.4)	*
	R5 年 2 月 1 日	県	(2.9)	(3.0)	(2.9)	*
		中電	(2.9)	(2.9)	(2.8)	*
高松沖	R4 年 6 月 8 日	県	(3.1)	(3.0)	(4.8)	*
		中電	(2.8)	(2.7)	(2.4)	*
	R4 年 8 月 2 日	県	(2.9)	(2.9)	(2.8)	*
		中電	(2.8)	(2.9)	(2.4)	*
	R4 年 12 月 13 日	県	(3.1)	(3.1)	(2.7)	*
		中電	(2.5)	(2.8)	(2.1)	*
	R5 年 2 月 1 日	県	(3.0)	(3.1)	(2.5)	*
		中電	(2.4)	(2.7)	(2.2)	*
尾高漁場	R4 年 6 月 8 日	県	(2.9)	(3.1)	(2.8)	*
		中電	(2.7)	(3.0)	(2.9)	*
	R4 年 8 月 2 日	県	(3.4)	(3.2)	2.1 (1.8)	*
		中電	(2.3)	(2.5)	3.0 (2.2)	*
	R4 年 12 月 13 日	県	(2.5)	(3.0)	(2.7)	*
		中電	(2.7)	(3.0)	(2.7)	*
	R5 年 2 月 1 日	県	(3.0)	(3.3)	(2.9)	*
		中電	(3.0)	(3.5)	(3.0)	*

注 1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注 2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注 3) () 内は、検出下限値を示す。

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾
中根礁	R4 年 6 月 8 日	県	* ²⁾ (3.5) ³⁾	* (3.4)	* (3.1)	*
		中電	* (2.7)	* (3.1)	* (3.0)	*
	R4 年 8 月 2 日	県	* (2.9)	* (3.1)	2.8 (2.6)	*
		中電	* (2.5)	* (3.1)	* (2.6)	*
	R4 年 12 月 13 日	県	* (2.9)	* (3.3)	* (2.7)	*
		中電	* (2.5)	* (2.5)	* (2.5)	*
	R5 年 2 月 1 日	県	* (2.7)	* (3.0)	3.0 (2.4)	*
		中電	* (2.3)	* (2.5)	* (2.7)	*
御前崎港	R4 年 6 月 8 日	県	* (3.3)	* (3.8)	* (3.2)	*
		中電	* (2.6)	* (3.4)	3.1 (2.5)	*
	R4 年 8 月 2 日	県	* (2.9)	* (3.1)	* (2.7)	*
		中電	* (2.7)	* (2.8)	2.9 (2.4)	*
	R4 年 12 月 13 日	県	* (3.1)	* (3.0)	* (2.8)	*
		中電	* (2.3)	* (2.8)	* (2.1)	*
	R5 年 2 月 1 日	県	* (2.9)	* (3.3)	* (2.8)	*
		中電	* (2.4)	* (2.7)	* (2.1)	*
浅根漁場	R4 年 6 月 8 日	県	* (3.6)	* (3.2)	* (2.9)	*
		中電	* (2.5)	* (2.7)	* (2.3)	*
	R4 年 8 月 2 日	県	* (3.3)	* (3.4)	* (3.0)	*
		中電	* (3.0)	* (3.0)	* (3.1)	*
	R4 年 12 月 13 日	県	* (2.9)	* (3.1)	* (2.8)	*
		中電	* (3.1)	* (3.5)	* (2.9)	*
	R5 年 2 月 1 日	県	* (2.8)	* (3.3)	* (2.6)	*
		中電	* (2.8)	* (3.3)	* (2.4)	*

注 1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注 2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注 3) () 内は、検出下限値を示す。

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	その他 ¹⁾
1, 2 号機 放水口付近	R4 年 6 月 8 日	県	* ²⁾ (2.7) ³⁾	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R4 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R4 年 12 月 13 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R5 年 2 月 1 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
取水口付近	R4 年 6 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R4 年 8 月 2 日	県	*	*	2.8	*
		中電	*	*	3.3	*
	R4 年 12 月 13 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R5 年 2 月 1 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
3 号機及び 4 号機 放水口付近	R4 年 6 月 8 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R4 年 8 月 2 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R4 年 12 月 13 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*
	R5 年 2 月 1 日	県	*	*	*	*
		中電	*	*	*	*

注 1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注 2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注 3) () 内は、検出下限値を示す。

単位：mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾
5号機放水口付近	R4年6月8日	県	* ²⁾ (3.4) ³⁾	* (3.3)	* (3.1)	*
		中電	* (2.5)	* (3.1)	* (2.8)	*
	R4年8月2日	県	* (3.4)	* (3.5)	* (3.1)	*
		中電	* (2.9)	* (3.1)	* (2.9)	*
	R4年12月13日	県	* (3.1)	* (2.7)	* (2.5)	*
		中電	* (3.0)	* (3.4)	* (2.7)	*
	R5年2月1日	県	* (2.9)	* (2.9)	* (2.4)	*
		中電	* (2.6)	* (3.1)	* (2.7)	*

注1) 「その他」は、コバルト60、セシウム134及びセシウム137以外の人工放射性核種を示す。

注2) 「*」は、「検出されず」を示す。

注3) ()内は、検出下限値を示す。

(イ) トリチウム分析

大気中水分

採取地点名	採取期間	測定値(Bq/L) (捕集水中トリチウム濃度)	測定値(Bq/m ³) (大気中トリチウム濃度)
御前崎市 白 砂	R4 年 4 月 1 日～R4 年 5 月 1 日	0.55 (0.34) ¹⁾	0.0060 (0.0037)
	R4 年 5 月 2 日～R4 年 5 月 31 日	0.73 (0.34)	0.0091 (0.0043)
	R4 年 6 月 1 日～R4 年 6 月 30 日	0.52 (0.34)	0.0085 (0.0056)
	R4 年 7 月 1 日～R4 年 7 月 31 日	0.40 (0.34)	0.0084 (0.0073)
	R4 年 8 月 18 日～R4 年 8 月 31 日	0.55 ²⁾ (0.34)	0.013 ²⁾ (0.0080)
	R4 年 9 月 1 日～R4 年 10 月 2 日	0.52 (0.34)	0.0100 (0.0066)
	R4 年 10 月 3 日～R4 年 10 月 31 日	* ³⁾ (0.35)	* (0.0041)
	R4 年 11 月 1 日～R4 年 11 月 30 日	* (0.35)	* (0.0032)
	R4 年 12 月 1 日～R5 年 1 月 3 日	0.76 (0.36)	0.0026 (0.0012)
	R5 年 1 月 4 日～R5 年 1 月 31 日	* (0.35)	* (0.0015)
	R5 年 2 月 1 日～R5 年 2 月 28 日	1.0 (0.36)	0.0047 (0.0016)
	R5 年 3 月 1 日～R5 年 4 月 2 日	1.4 (0.37)	0.0098 (0.0025)
御前崎市 中 町	R4 年 4 月 1 日～R4 年 5 月 1 日	0.77 (0.50)	0.0056 (0.0036)
	R4 年 5 月 2 日～R4 年 5 月 31 日	0.72 (0.48)	0.0069 (0.0046)
	R4 年 6 月 1 日～R4 年 6 月 30 日	* (0.47)	* (0.0068)
	R4 年 7 月 1 日～R4 年 7 月 31 日	0.80 (0.48)	0.0087 (0.0053)
	R4 年 8 月 1 日～R4 年 8 月 31 日	0.60 (0.48)	0.0065 (0.0052)
	R4 年 9 月 1 日～R4 年 10 月 2 日	* (0.47)	* (0.0048)
	R4 年 10 月 3 日～R4 年 10 月 31 日	* (0.49)	* (0.0046)
	R4 年 11 月 1 日～R4 年 11 月 30 日	0.95 (0.50)	0.0060 (0.0031)
	R4 年 12 月 1 日～R5 年 1 月 3 日	* (0.46)	* (0.0015)
	R5 年 1 月 4 日～R5 年 1 月 31 日	0.67 (0.46)	0.0026 (0.0018)
	R5 年 2 月 1 日～R5 年 2 月 28 日	0.74 (0.45)	0.0028 (0.0017)
	R5 年 3 月 1 日～R5 年 4 月 2 日	0.54 (0.45)	0.0024 (0.0020)

注 1) () 内は、検出下限値を示す。

注 2) 捕集カラムの破損があり、カラムを交換して 8 月 18 日から捕集を再開したため、参考値とする。1 か月連続捕集ではないため、当該測定を欠測として扱う。

注 3) 「*」は、「検出されず」を示す。

採取地点名	採取期間	測定値(Bq/L) (捕集水中トリチウム濃度)	測定値(Bq/m³) (大気中トリチウム濃度)
御前崎市 平 場	R4 年 4 月 1 日～R4 年 5 月 1 日	0.67 (0.34) ¹⁾	0.0075 (0.0038)
	R4 年 5 月 2 日～R4 年 5 月 31 日	0.80 (0.34)	0.010 (0.0043)
	R4 年 6 月 1 日～R4 年 6 月 30 日	0.45 (0.34)	0.0075 (0.0056)
	R4 年 7 月 1 日～R4 年 7 月 31 日	* ²⁾ (0.34)	* (0.0071)
	R4 年 8 月 1 日～R4 年 8 月 31 日	0.41 (0.34)	0.0092 (0.0077)
	R4 年 9 月 1 日～R4 年 10 月 2 日	0.65 (0.35)	0.013 (0.0071)
	R4 年 10 月 3 日～R4 年 10 月 31 日	* (0.35)	* (0.0043)
	R4 年 11 月 1 日～R4 年 11 月 30 日	* (0.35)	* (0.0033)
	R4 年 12 月 1 日～R5 年 1 月 3 日	0.78 (0.36)	0.0029 (0.0014)
	R5 年 1 月 4 日～R5 年 1 月 31 日	* (0.35)	* (0.0016)
	R5 年 2 月 1 日～R5 年 2 月 28 日	0.78 (0.36)	0.0039 (0.0017)
	R5 年 3 月 1 日～R5 年 4 月 2 日	1.3 (0.36)	0.0095 (0.0026)
御前崎市 上ノ原	R4 年 4 月 1 日～R4 年 5 月 1 日	0.60 (0.49)	0.0055 (0.0045)
	R4 年 5 月 2 日～R4 年 5 月 31 日	0.52 (0.48)	0.0058 (0.0054)
	R4 年 6 月 1 日～R4 年 6 月 30 日	* (0.48)	* (0.0070)
	R4 年 7 月 1 日～R4 年 7 月 31 日	0.50 (0.47)	0.0073 (0.0069)
	R4 年 8 月 1 日～R4 年 8 月 31 日	* (0.48)	* (0.0069)
	R4 年 9 月 1 日～R4 年 10 月 2 日	* (0.49)	* (0.0053)
	R4 年 10 月 3 日～R4 年 10 月 31 日	* (0.49)	* (0.0053)
	R4 年 11 月 1 日～R4 年 11 月 30 日	0.57 (0.49)	0.0046 (0.0040)
	R4 年 12 月 1 日～R5 年 1 月 3 日	* (0.47)	* (0.0021)
	R5 年 1 月 4 日～R5 年 1 月 31 日	0.66 (0.47)	0.0028 (0.0020)
	R5 年 2 月 1 日～R5 年 2 月 28 日	0.59 (0.45)	0.0027 (0.0020)
	R5 年 3 月 1 日～R5 年 4 月 2 日	1.0 (0.46)	0.0065 (0.0028)

注 1) () 内は、検出下限値を示す。

注 2) 「*」は、「検出されず」を示す。

(5) バックグラウンド測定
ア 機器分析（ γ 線放出核種）

土 壤

単位：Bq/kg 乾土

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾	^{40}K ²⁾
掛川市 掛川市役所大東支所	R4 年 7 月 11 日	県	* ³⁾ (0.85) ⁴⁾	*	14.7 (1.4)	*	530 (31)
		中電	*	*	13.8 (1.4)	*	540 (31)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

玄 米

単位：Bq/kg 生

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾	^{40}K ²⁾
菊川市 小笠東	R4 年 10 月 25 日	県	* ³⁾ (0.055) ⁴⁾	*	*	*	65.8 (2.5)
		中電	*	*	*	*	64.8 (2.3)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

レタス

単位：Bq/kg 生

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾	^{40}K ²⁾
菊川市 小笠東	R5 年 1 月 12 日	県	* ³⁾ (0.082) ⁴⁾	*	*	*	96 (3.7)
		中電	*	*	*	*	169 (6.1)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

茶 葉

単位：Bq/kg 生

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	その他 ¹⁾	^{40}K ²⁾
菊川市 小笠東	R4 年 4 月 27 日	県	* ³⁾ (0.096) ⁴⁾	*	*	*	136 (4.9)
		中電	*	*	*	*	127 (4.7)

注1) 「その他」は、コバルト 60、セシウム 134 及びセシウム 137 以外の人工放射性核種を示す。

注2) カリウム 40 は、自然放射性核種である。

注3) 「*」は、「検出されず」を示す。

注4) () 内は、検出下限値を示す。

イ 放射性ストロンチウム分析（ストロンチウム 90）

土 壤

単位：Bq/kg 乾土

採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
掛川市 掛川市役所大東支所	R4 年 7 月 11 日	県	* ¹⁾ (0.13) ²⁾
		中電	0.24 (0.18)

注1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注2) () 内は、検出下限値を示す。

ウ トリチウム分析

海 水

単位：Bq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
浅根漁場	R4 年 8 月 2 日	県	* ¹⁾ (0.34) ²⁾
		中電	0.49 (0.47)
御前崎港	R4 年 8 月 2 日	県	* (0.33)
		中電	* (0.48)

注1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注2) () 内は、検出下限値を示す。

エ プルトニウム分析（プルトニウム 238、プルトニウム 239+240）

土 壤

単位：Bq/kg 乾土

採取地点名	採取年月日	核種	測定機関	測定値
掛川市 掛川市役所大東支所	R4 年 7 月 11 日	Pu-238	県	* ¹⁾ (0.0038) ²⁾
			中電	* (0.0044)
		Pu-239+240	県	0.028 (0.016)
			中電	0.068 (0.025)

注1) 「*」は、「検出されず」を示す。

注2) () 内は、検出下限値を示す。

付表 測定器の種類

測定項目		測定機関	測 定 器	直近点検年月	
空間放射線量	線量率	県	NaI (Tl) 型空間ガンマ線測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 エネルギー特性補償型 (2 局方向特定可能型) ：日本レイテック(株)製 エネルギー特性補償型	R5 年 1 月 R5 年 3 月	
		中電	NaI (Tl) 型空間ガンマ線測定装置 ：日本レイテック(株)製 エネルギー特性補償型	R4 年 11～12 月	
	積算線量	県	蛍光ガラス線量計素子：AGC テクノグラス(株)製 SC-1 蛍光ガラス線量計読取装置：AGC テクノグラス(株)製 FGD251	R4 年 8 月	
		中電	蛍光ガラス線量計素子：AGC テクノグラス(株)製 SC-1 蛍光ガラス線量計読取装置：AGC テクノグラス(株)製 FGD-201	R5 年 2 月	
環境試料中の放射能	全α放射能・ 全β放射能	県	ZnS (Ag)＋プラスチックシンチレータ型アルファ線・ベータ線 同時測定装置：応用光研工業(株)製 S-2868SIZ	R5 年 3 月	
		中電	ZnS (Ag)＋プラスチックシンチレータ型アルファ線・ベータ線 同時測定装置：日立アロカメディカル(株)製 ADC-2121	R4 年 11 月	
	核種分析	γ線 放出核種	県	波高分析装置（検出器／波高分析器） ：キャンベラ製 GC4018／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GC4519／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GC4019／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GX4018／キャンベラ製 Lynx ：キャンベラ製 GC4018／キャンベラ製 DSA-1000	R4 年 12 月 R4 年 12 月 R4 年 12 月 R5 年 3 月 R4 年 12 月
			中電	波高分析装置（検出器／波高分析器） ：セイコーEG&G GEM-40-83／セイコーEG&G MCA-7600 ：セイコーEG&G GEM-40-S／セイコーEG&G MCA-7600	R5 年 3 月
		ストロンチウム 90	県	低バックグラウンドガスフロー測定装置 ：(株)日立製作所製 LBC-4611 ：キャンベラ製 LB4200（委託先設備）	R5 年 2 月 R5 年 4 月
			中電	低バックグラウンドガスフロー測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 LBC-4302B	R4 年 11 月
		トリチウム	県	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 LSC-LB8	R5 年 2 月
			中電	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置 ：日立アロカメディカル(株)製 LSC-LB5	R4 年 6 月
		プルトニウム	県	シリコン半導体検出器 ：キャンベラ製 Alpha Anaiyst（委託先設備）	R5 年 4 月
			中電	シリコン半導体検出器 ：ORTEC 製 BU-020-450-AS（委託先設備）	R3 年 7 月
排水の全計数率		中電	1, 2 号機放水口モニタ（検出器）：富士電機株式会社製 NDS3ABB2-AYYY-S 3 号機放水口モニタ（検出器）：東芝エネルギーシステムズ(株)製 HNB712 4 号機放水口モニタ（検出器）：東芝エネルギーシステムズ(株)製 HNB712 5 号機放水口モニタ（検出器）：東芝エネルギーシステムズ(株)製 HNB712	R4 年 12 月 R4 年 9 月 R3 年 2 月 R1 年 9 月	

2-1 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（空間放射線量率）

令和4年7月15日、旧監視センターモニタリングステーション（以下「MS」という。）の空間放射線量率の値が、一時的に平常の変動幅の上限を超過した。

原因調査の結果、人工放射性核種の影響ではなく、降雨による自然変動（自然放射線の変動）と推定するに至った。

1 測定結果

表1及び図1のとおり、令和4年7月15日 11時50分、旧監視センターMSで測定した空間放射線量率が、10分間平均値の平常の変動幅の上限を超過した。

なお、1時間平均値については超過しなかった。

また、図2のとおり、他の近隣MSも同様の時間帯に類似の上昇が見られたが、平常の変動幅の上限は超過しなかった。

2 原因調査

(1) 発電所内エリアモニタリング設備等の異常の有無

テレメータシステムで収集している発電所敷地境界モニタリングポスト、排気筒モニタ及び放水口モニタの当該時間帯の空間放射線量率及び計数率を確認したところ、平常の変動幅を超過する数値は計測されなかった。

また、その他エリアモニタリング設備（格納容器雰囲気モニタ、燃料交換エリア換気モニタ等）に異常はなかった。

(2) 自然放射性核種の変動

旧監視センターMSは、同時時間帯に降雨が計測され、そのことによる影響で空間放射線量率が上昇したと考えられる時系列変化を示していた（図1）。

他の近隣MSも同様の傾向で、御前崎市内で広く降雨があり、そのために空間放射線量率が上昇したと考えられた（図2）。

また、旧監視センターの線量率トレンドグラフを確認したところ、天然放射性核種（U系列）の値が上昇していた（図3）。

よって、今回の空間放射線量率上昇は降雨による影響と推定された。

(3) 周辺環境の変化

現地の周辺環境を監視カメラの映像により確認したところ、降雨以外に空間放射線量率の上昇に寄与するような環境の変化は認められなかった。

3 結論

令和4年7月15日に旧監視センターMSの空間放射線量率における平常の変動幅の上限を超過した原因は、降雨による自然変動（自然放射線の変動）によるものと推定された。

表 1 空間放射線量率（10 分間平均値）

単位：nGy/h

測定地点	空間放射線量率 (日時：7 月 15 日 11 時 50 分)	平常の変動幅
旧監視センター	78	39～77

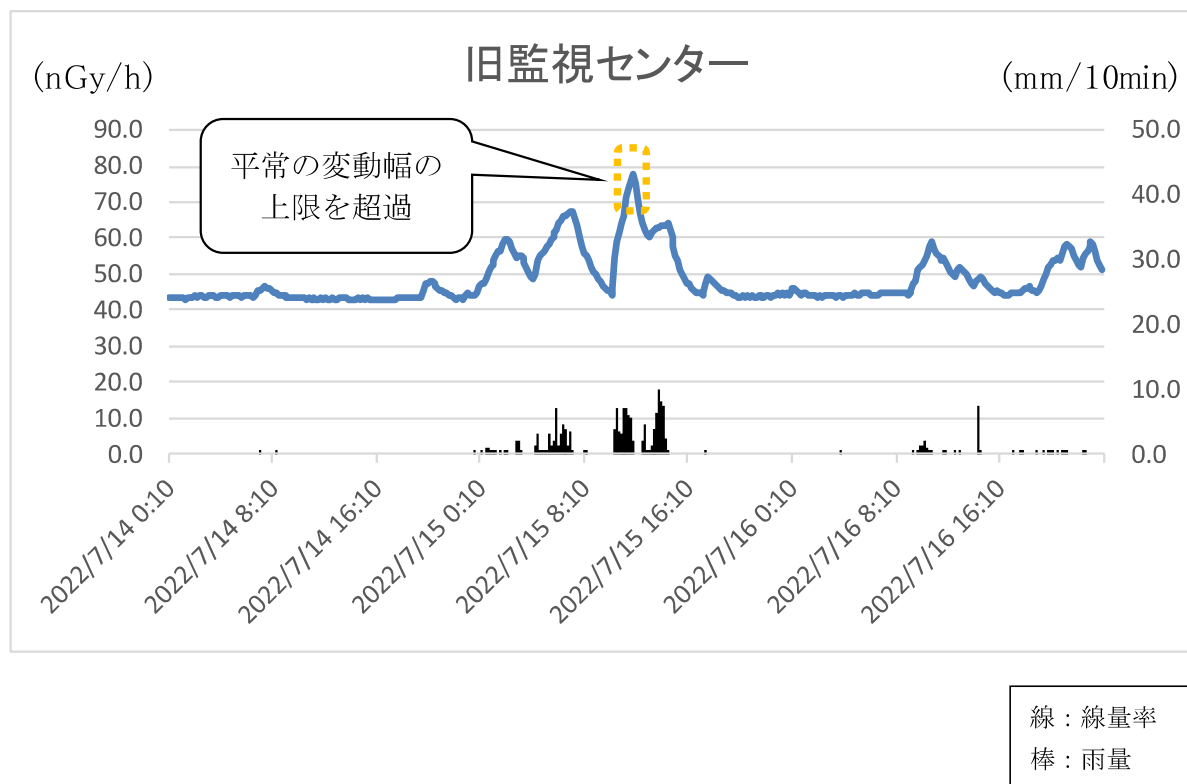


図 1 空間放射線量率及び雨量の時系列変化（旧監視センターMS）

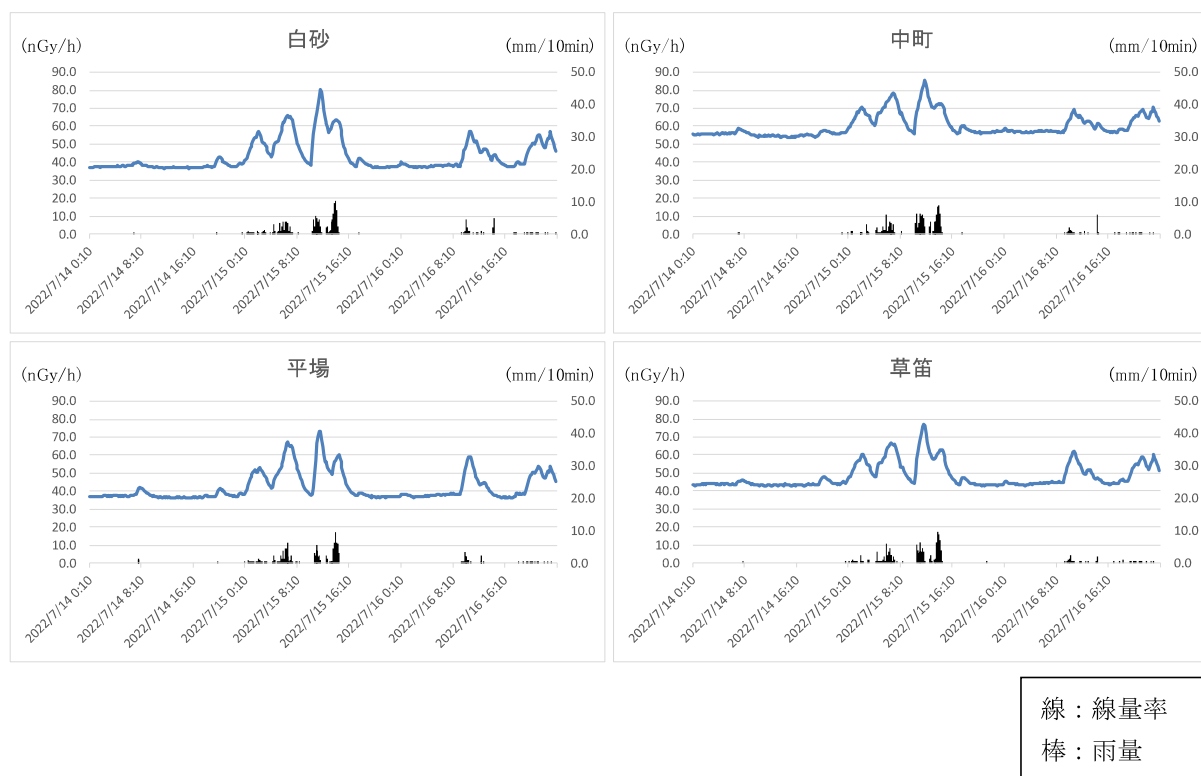


図2 空間放射線量率及び雨量の時系列変化（旧監視センターの近隣MS）

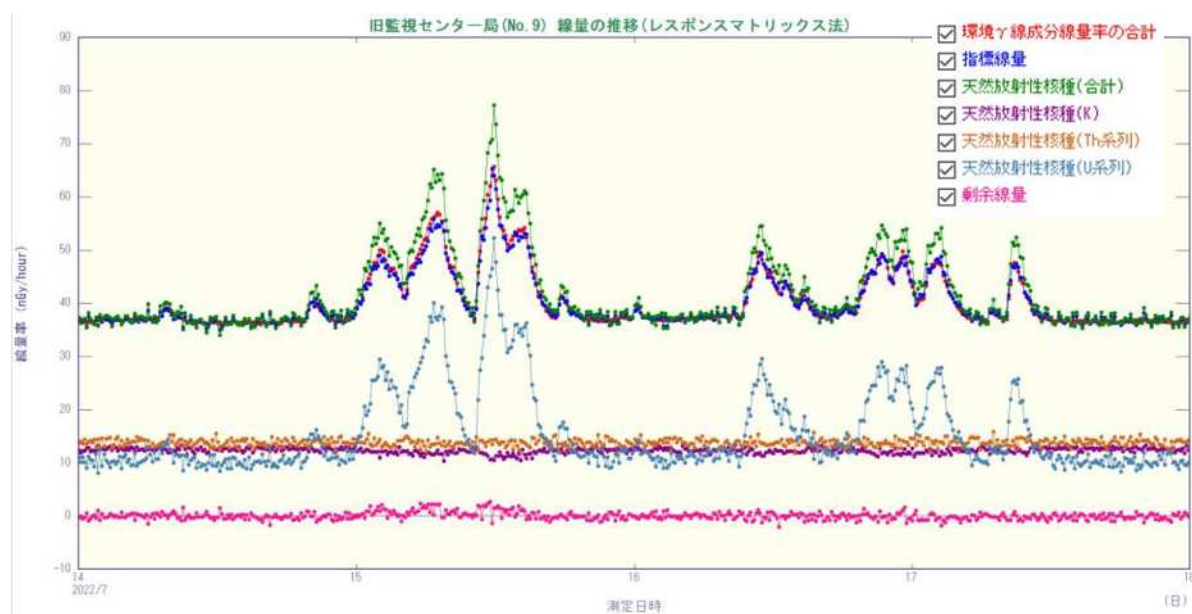


図3 線量率トレンドグラフ

2-2 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（空間放射線量率）

令和 4 年 10 月 18 日、桜ヶ池公民館、佐倉三区、旧監視センター及び草笛モニタリングステーション（以下「MS」という。）の空間放射線量率の値が、一時的に平常の変動幅の上限を超過した。

原因調査の結果、人工放射性核種の影響ではなく、降雨による自然変動（自然放射線の変動）と推定するに至った。

1 測定結果

表 1、表 2 及び図 1 のとおり、令和 4 年 10 月 18 日に桜ヶ池公民館 MS 他 3 局で測定した空間放射線量率が、10 分間平均値又は 1 時間平均値の平常の変動幅の上限を超過した。

2 原因調査

(1) 発電所内エリアモニタリング設備等の異常の有無

テレメータシステムで収集している発電所敷地境界モニタリングポスト、排気筒モニタ及び放水口モニタの当該時間帯の空間放射線量率及び計数率を確認したところ、平常の変動幅を超過する数値は計測されなかった。

また、その他エリアモニタリング設備（格納容器雰囲気モニタ、燃料交換エリア換気モニタ等）に異常はなかった。

(2) 自然放射性核種の変動

桜ヶ池公民館 MS 他 3 局は、同時時間帯に降雨が計測され、そのことによる影響で空間放射線量率が上昇したと考えられる時系列変化を示していた（図 1）。

また、桜ヶ池公民館 MS 他 3 局の線量率トレンドグラフを確認したところ、天然放射性核種（U 系列）の値が上昇していた（図 2）。

よって、今回の空間放射線量率上昇は降雨による影響と推定された。

(3) 周辺環境の変化

現地の周辺環境を監視カメラの映像により確認したところ、降雨以外に空間放射線量率の上昇に寄与するような環境の変化は認められなかった。

3 結論

令和 4 年 10 月 18 日に桜ヶ池公民館 MS 他 3 局の空間放射線量率における平常の変動幅の上限を超過した原因は、降雨による自然変動（自然放射線の変動）によるものと推定された。

表 1 空間放射線量率（10 分間平均値）

単位：nGy/h

測定地点	空間放射線量率 最大値 (期間：10 月 18 日 21 時 20 分～ 22 時 40 分)	平常の変動幅
桜ヶ池公民館	103	43～88
佐倉三区	88	36～86
旧監視センター	85	39～77
草笛	96	38～79

表 2 空間放射線量率（1 時間平均値）

単位：nGy/h

測定地点	空間放射線量率 最大値 (期間：10 月 18 日 22 時～23 時)	平常の変動幅
桜ヶ池公民館	95	44～86
旧監視センター	81	40～76
草笛	84	38～77

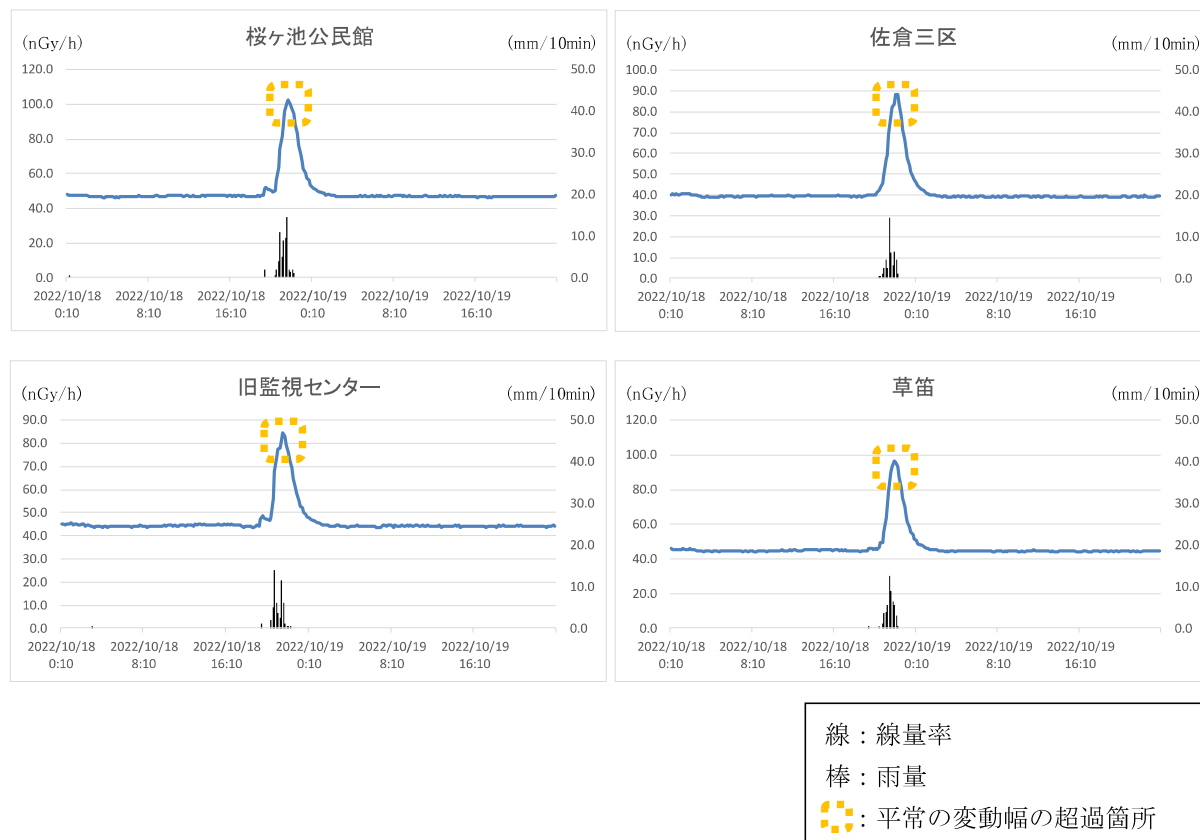


図 1 空間放射線量率及び雨量の時系列変化

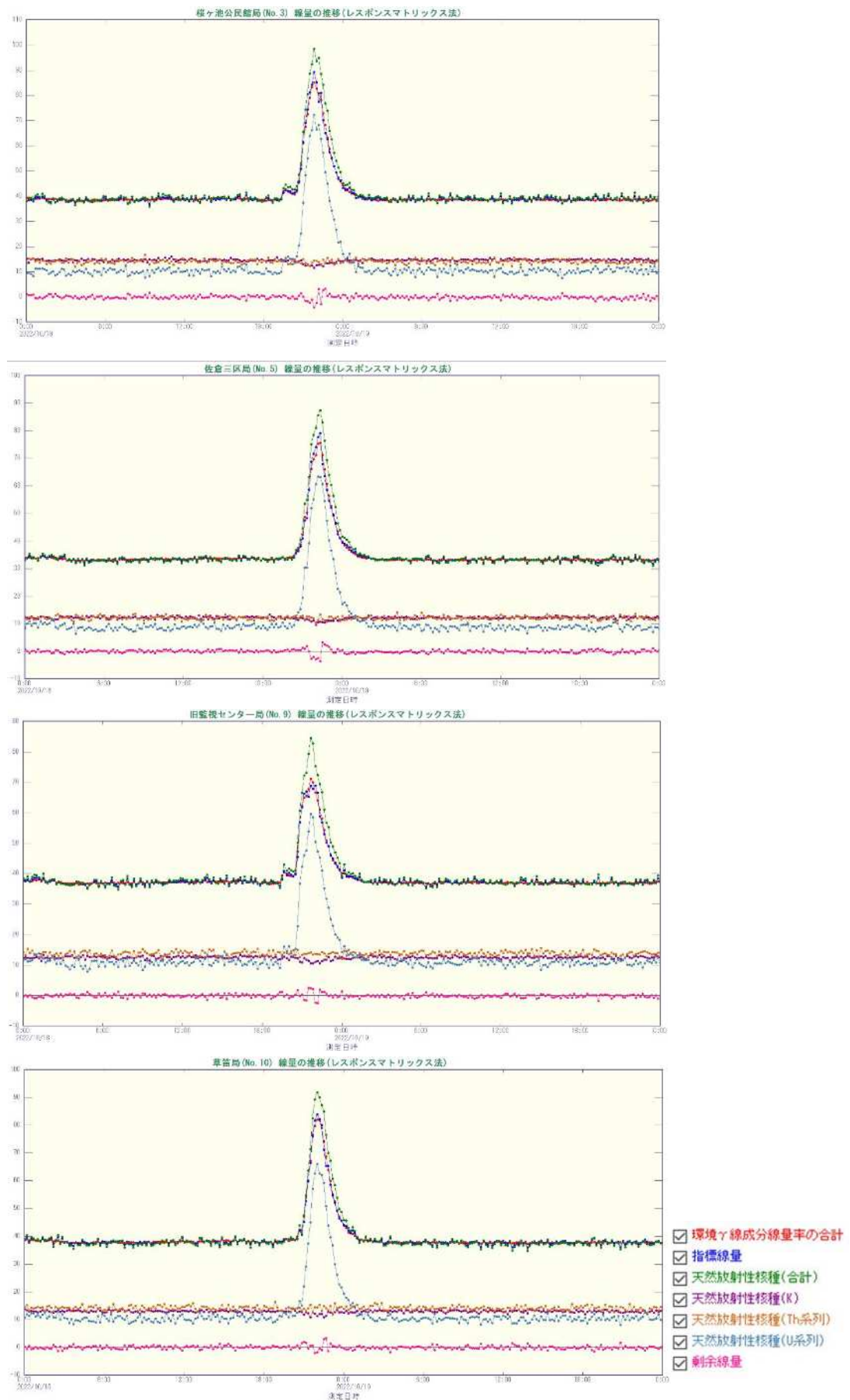


図2 線量率トレンドグラフ

3-1 平常の変動幅の下限逸脱に係る原因調査報告（空間放射線量率）

令和4年6月24日、平場モニタリングステーション（以下「MS」という。）の空間放射線量率（10分間平均値）の値が、一時的に平常の変動幅の下限を下回ったため、その原因について調査した。

調査の結果、平常の変動幅の下限を下回った原因は、車両による遮蔽と考えられた。

記

1 測定結果

表1及び図1のとおり、平場MSで測定した空間放射線量率（10分間平均値）が、令和4年6月24日の16時40分及び16時50分において平常の変動幅の下限を下回った。なお、1時間平均値については、平常の変動幅の範囲内であった。

表1 空間放射線量率（10分間平均値） 単位：nGy/h

日 時	測定値	平常の変動幅
6月24日 16時40分、16時50分	35 (35.4、35.1)	36～106

2 原因調査

(1) 測定地点周辺の環境の変化

図1のとおり、平場MSの近傍に車両が駐車していることについて、監視カメラの映像で確認できた（16時32分から16時50分まで）。平常の変動幅の下限を下回った時間とほぼ一致し、車両により線量率計に対して遮蔽効果が働いたことが推定された。

(2) 測定器等の健全性

当該事象発生後に現場点検を行い、線量率計に異常がないことを確認した。また、現地の記録計の指示値とテレメータシステムで収集したデータとの間に相違がないことを確認した。

3 まとめ

平場MSにおいて平常の変動幅の下限を下回った原因は、線量率計近傍の駐車車両により遮蔽効果が生じたためと考えられる。

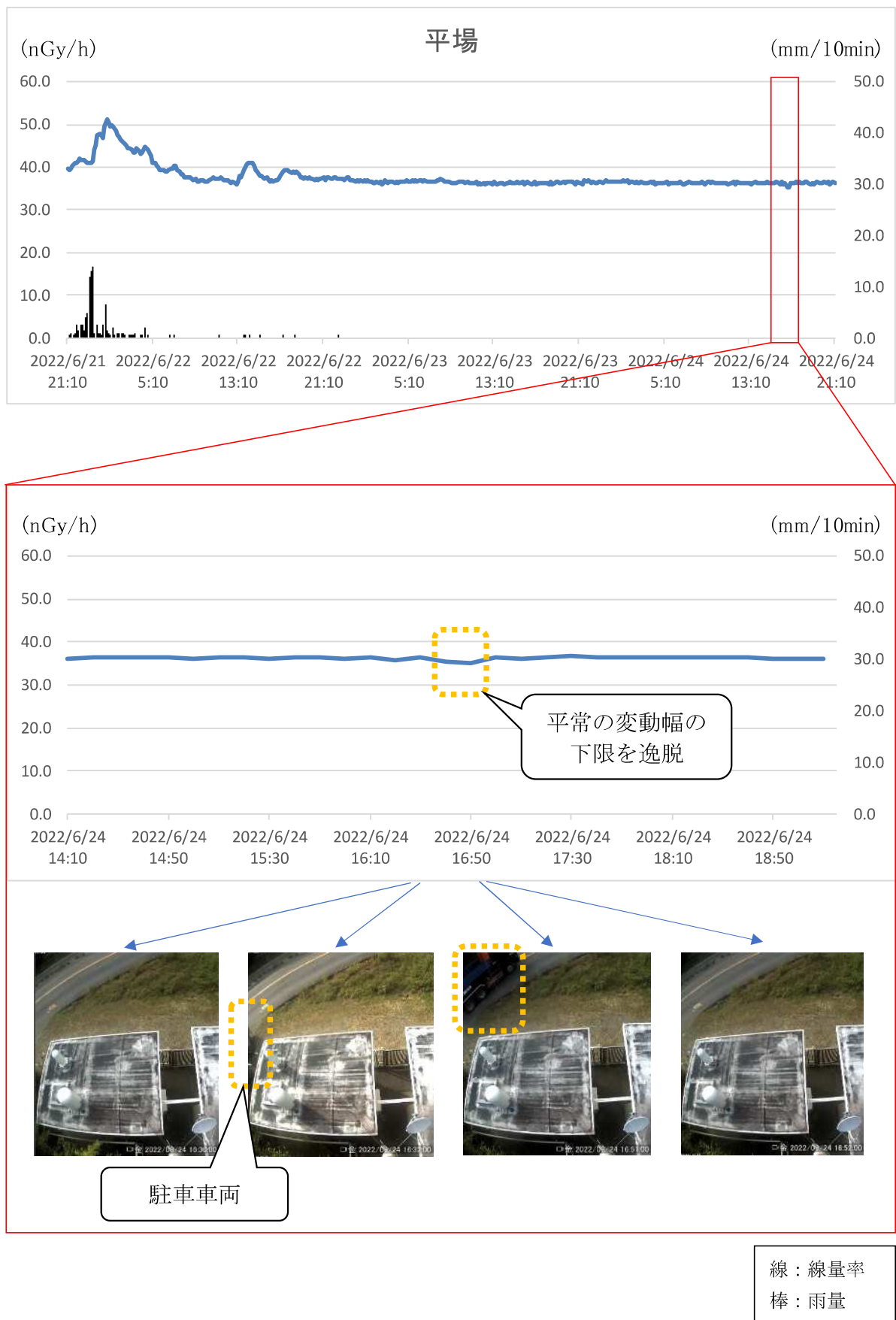


図1 線量率の時系列変化と監視カメラ画像の推移

3-2 平常の変動幅の下限逸脱に係る原因調査報告（空間放射線量率）

令和4年7月30日9:30～15:50にかけて、モニタリングステーション中町局（以下、中町MS）において、空間放射線量率が「自然放射線による変動範囲」の下限を逸脱する事象が発生したため、その原因について調査した。調査の結果、車両による遮蔽の影響であると推定した。

1 測定結果

表1及び図1に中町MSの空間放射線量率を示す。当日は54～56nGy/h付近の値を推移した後、8:30頃から線量率が低下し、9:30に平常の変動幅の下限値を逸脱した。その後も線量率は49～50nGy/hで推移し、16:10に低下前の値に戻った。

同様に、表2のとおり、1時間平均値についても平常の変動幅の下限値を逸脱した。

表1 中町MSの空間放射線量率（10分間平均値）

下限逸脱時刻 （7月30日）	線量率 （nGy/h）	平常の変動幅 （nGy/h）
9:30～10:10	49	50～88
10:40～10:50	49	
11:20	49	
11:40	49	
12:20～12:30	49	
12:50	49	
13:10～15:50	49	

表2 中町MSの空間放射線量率（1時間平均値）

下限逸脱時刻 （7月30日）	線量率 （nGy/h）	平常の変動幅 （nGy/h）
10:00～15:00	49	50～87

2 原因調査

(1) 車両等の遮蔽物の存在

現場を確認したところ、御前崎市婦人科健診（当日9時～13時予定）のため、中町MS近傍に検診車が4台停車していた。検診車はX線用の遮蔽材を積載しているため、検診車によって地中に存在する天然核種による放射線が遮蔽され、線量率が低下したと推測される。

(2) 測定器等の健全性

当該事象発生後に現場確認を行い、線量率計に異常がないことを確認した。また、現場の記録計の指示値とテレメータシステムで収集したデータとの間に相違がないことを確認した。

3 まとめ

中町 MS において空間放射線量率が平常の変動幅の下限を下回った原因は、線量率計近傍の駐車車両による遮蔽の影響であると考えられる。

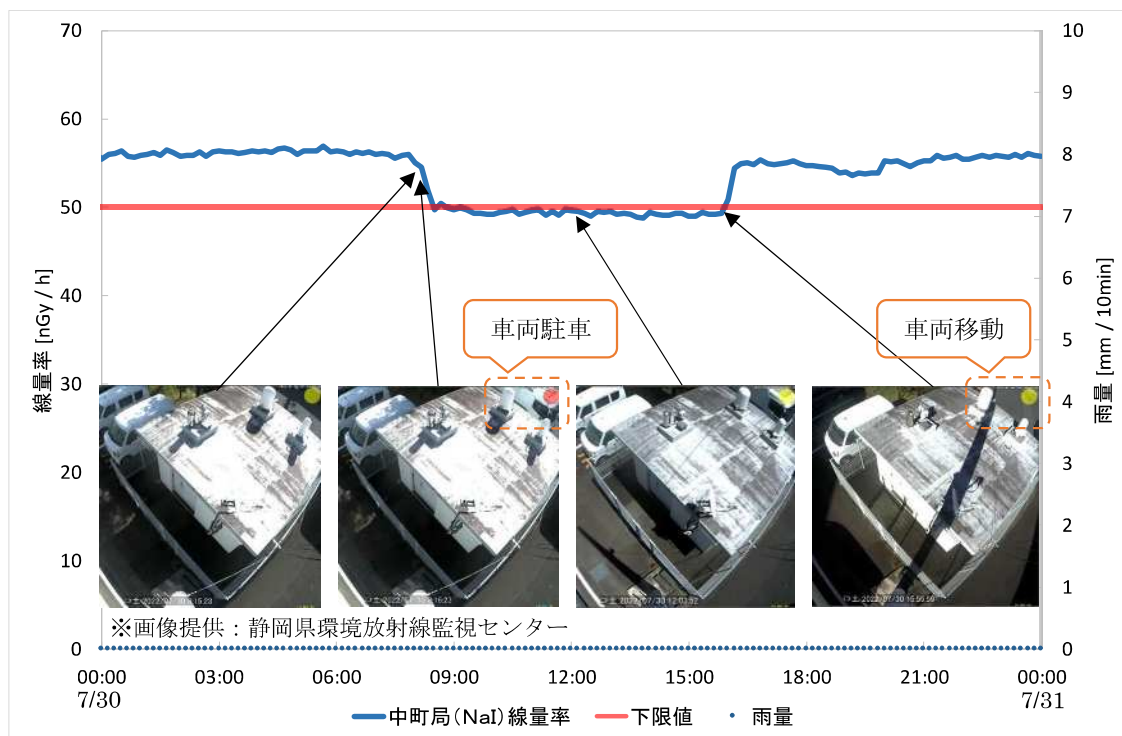


図 1 中町 MS の空間放射線量率時系列変化

以上

4-1 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（環境試料中の放射能）

令和4年度第1四半期分の発電所周辺の環境放射能調査において、「大気中浮遊塵」及び「茶葉」の2試料でセシウム137が平常の変動幅の上限を超過した。

調査の結果、平常の変動幅の上限を超過した原因は浜岡原子力発電所の影響ではなく、大気中浮遊塵については採取地点近傍で行われた工事の影響、茶葉については過去の核爆発実験等の影響に東京電力(株)福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響が加わったものと推定した。

記

1 測定結果

対象となった2試料のγ線核種分析結果を表1～表2に示す。（上限を超過した測定値は下線で示した。）なお、表中の括弧内の数値は検出下限値を示す。

表1 大気中浮遊塵

単位：mBq/m³

採取地点	採取期間	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
御前崎市 白砂	5/2～5/31	監視 センター	* ¹⁾ (0.0092)	* (0.0095)	<u>0.023±0.003</u> (0.0086)	7.0±0.1 (0.34)
御前崎市 中町	5/2～5/31	中部 電力(株)	* (0.0086)	* (0.0081)	* (0.0074)	5.24±0.08 (0.25)
御前崎市 平場	5/2～5/31	監視 センター	* (0.010)	* (0.010)	* (0.0093)	7.1±0.1 (0.34)
御前崎市 白羽小学校	5/2～5/31	中部 電力(株)	* (0.0091)	* (0.0091)	* (0.0091)	5.30±0.09 (0.28)
牧之原市 地頭方小学校	5/2～5/31	中部 電力(株)	* (0.0072)	* (0.0077)	* (0.0070)	5.68±0.09 (0.26)
平常の変動幅			*	*	*	自然放射性 核種
震災後の変動幅			*	*～7.78	*～8.21	

注1) *印は「検出されず」を示す。

表 2 茶葉

単位：Bq/kg 生

採取地点	採取日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁴⁰ K (参考)
御前崎市 朝比奈	4/28	監視 センター	* ¹⁾ (0.043)	*	0.031±0.007 (0.022)	144.8±0.8 (2.4)
		中部 電力㈱	*	*	*	136.3±0.8 (2.3)
御前崎市 新 野	4/28	監視 センター	*	*	0.041±0.008 (0.023)	126.8±0.7 (2.2)
		中部 電力㈱	*	*	0.047±0.009 (0.026)	133.9±0.7 (2.0)
御前崎市 新 谷	4/28	監視 センター	*	*	<u>0.072</u> ±0.007 (0.022)	121.0±0.7 (2.2)
		中部 電力㈱	*	*	0.061±0.010 (0.031)	125.1±0.8 (2.3)
牧之原市 笠 名	4/25	監視 センター	*	*	<u>0.076</u> ±0.008 (0.024)	132.6±0.8 (2.3)
		中部 電力㈱	*	*	*	136.9±0.8 (2.5)
菊川市 川 上	4/28	監視 センター	*	*	0.060±0.008 (0.025)	140.1±0.8 (2.3)
		中部 電力㈱	*	*	0.065±0.009 (0.026)	139.6±0.7 (2.0)
平常の変動幅			*	*	*～0.066	自然放射性
震災後の変動幅			*	*～44.6	*～45.5	核種

注 1) *印は「検出されず」を示す。

2 原因調査

(1) 発電所内エリアモニタリング設備等の異常値及び発電所外への放出の状況

発電所内のエリアモニタリング設備等に異常は認められず、発電所外への放出管理も適切に行われていることを確認した。このことから、発電所からの影響ではないと考えられる。

(2) 測定方法等の妥当性

静岡県及び中部電力の両測定機関において、試料の採取方法、前処理方法及び測定の手順に問題はなかったことを確認した。

(3) 採取地点周辺の環境の変化

大気中浮遊塵（白砂）について、5月9日から5月17日にかけて採取地点近傍において砂丘から流出した砂の撤去工事があり、掘削、運搬作業及び埋め戻し作業が行われたことを確認した（図1～図2）。

(4) 測定結果の経時的変化

茶葉について、測定結果の経時的変化を図3に示した。試料中の放射性セシウム濃度は東電事故直後に上昇し、その後低減したが近年も検出されており、今回の結果は特異的なものではないことを確認した。

3 調査結果及び評価結果

調査の結果、今回の上限超過の原因は浜岡原子力発電所からの影響ではなく、大気中浮遊塵については採取地点近傍の工事によりセシウム 137 を含む土砂が飛散したことによるもの、茶葉については過去の核爆発実験等の影響に東京電力(株)福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響が加わったものと考えられる。

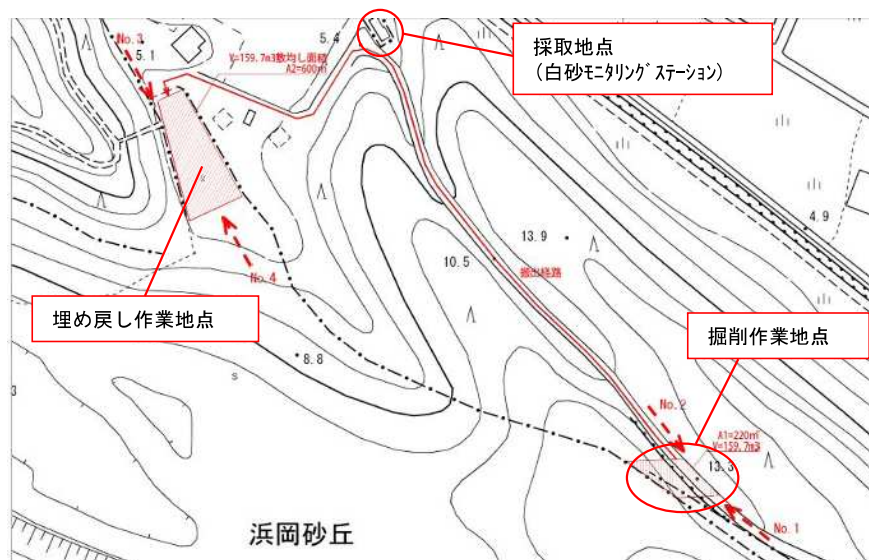
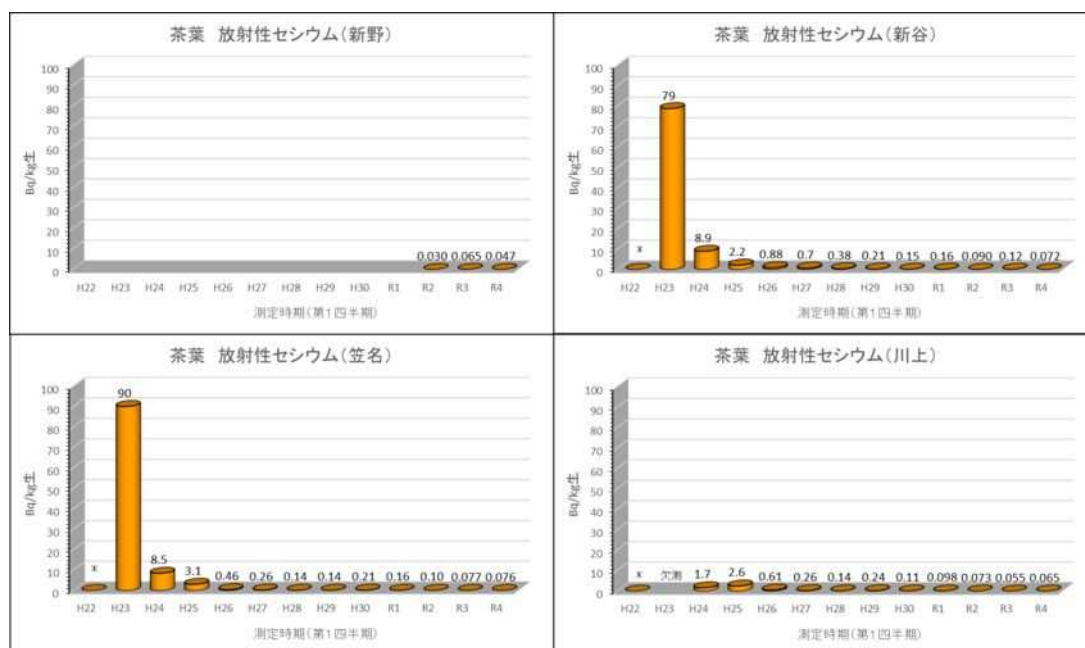


図1 砂撤去工事箇所（平面図）



図2 掘削作業（左）及び埋め戻し作業（右）の様子



*印は「検出されず」を示す。

図3 茶葉中の放射性セシウム濃度の経時的変化

- 注) 測定機関2者のうち、放射性セシウム濃度が高い値を採用している。
 注) 朝比奈は今年度から採取地点となったため、グラフは掲載していない。
 注) 新野は令和2年度から採取地点となった。

4-2 平常の変動幅の上限逸脱に係る原因調査報告（環境試料中の放射能）

令和 4 年度第 2 四半期分の発電所周辺の環境放射能調査において、「土壌」でセシウム 137 が平常の変動幅の上限を超過した。

調査の結果、平常の変動幅の上限を超過した原因は浜岡原子力発電所ではなく、過去の核爆発実験や東京電力(株)福島第一原子力発電所等の事故で放出された放射性物質の影響と推定した。

また、バックグラウンド測定として実施した「土壌(掛川市役所大東支所)」の放射能測定においても、セシウム 137 が平常の変動幅の上限を超過したが、測定方法等に問題はなかった。

1 測定結果

対象となった土壌試料のγ線核種分析結果を表 1 に示す。上限を超過した測定値は下線で示した。なお、表中の括弧内の数値は検出下限値を表す。

表 1 土壌

単位：Bq/kg 乾土

採取地点	採取日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁴⁰ K (参考)
下朝比奈	9/5	監視 センター	* ¹⁾ (0.82)	* (0.78)	5.9±0.3 (1.0)	550±10 (31)
		中部 電力(株)	* (0.85)	* (0.86)	5.6±0.4 (1.3)	590±10 (34)
新神子	9/5	監視 センター	* (0.73)	* (0.74)	2.8±0.3 (0.76)	502±10 (29)
		中部 電力(株)	* (0.67)	* (0.60)	3.1±0.2 (0.74)	526±9 (27)
比木	9/5	監視 センター	* (0.83)	* (0.84)	2.0±0.3 (0.75)	620±10 (33)
		中部 電力(株)	* (1.0)	* (0.99)	2.0±0.4 (1.1)	660±10 (39)
笠名	9/5	監視 センター	* (0.80)	* (0.79)	8.1±0.4 (1.1)	630±10 (32)
		中部 電力(株)	* (0.92)	* (0.85)	9.6±0.5 (1.4)	670±10 (36)
平常の変動幅			*	*	1.7～8.9	自然放射性 核種
震災後の変動幅			*	*～21.6	0.8～28.4	

注 1) *印は「検出されず」を示す。

2 原因調査

- (1) 発電所内エリアモニタリング設備等の異常値及び発電所外への放出の状況
 発電所内のエリアモニタリング設備等に異常は認められず、発電所外への放出管理も適切に行われていることを確認した。このことから、発電所からの影響ではないと考えられる。
- (2) 測定方法等の妥当性
 静岡県及び中部電力の両測定機関において、試料の採取方法、前処理方法及び測定の手順に問題はなかったことを確認した。
- (3) 測定結果の経時的変化
 土壌について、測定結果の経時的変化を図 1 に示した。試料中の放射性セシウム濃度は東電事故直後に上昇し、その後低減したが近年も検出されており、今回の結果は特異的なものではないことを確認した。

3 調査の評価

調査の結果、今回の上限超過の原因は浜岡原子力発電所ではなく、過去の核爆発実験や東京電力(株)福島第一原子力発電所等の事故で放出された放射性物質の影響と考えられる。

4 バックグラウンド測定

土壌のγ線核種分析結果を表 2 に示す。土壌の平常の変動幅の上限を超過した測定値は下線で示した。なお、表中の括弧内の数値は検出下限値を表す。

測定方法等の妥当性について、静岡県及び中部電力の両測定機関における試料の採取方法、前処理方法及び測定の手順に問題はなかったことを確認した。

表 2 土壌（バックグラウンド測定）

単位：Bq/kg 乾土

採取地点	採取日	測定機関	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁴⁰ K(参考)
掛川市役所 大東支所	7/11	監視 センター	* ¹⁾ (0.85)	* (0.77)	<u>14.7</u> ±0.5 (1.4)	530±10 (31)
		中部 電力(株)	* (0.84)	* (0.75)	<u>13.8</u> ±0.5 (1.4)	540±10 (31)
平常の変動幅 ²⁾			*	*	1.7～8.9	自然放射性 核種
震災後の変動幅 ³⁾			*	*～21.6	0.8～28.4	

注 1) *印は「検出されず」を示す。

注 2) 御前崎市 2 地点、牧之原市 1 地点における土壌の平常の変動幅を示す。

注 3) 御前崎市 3 地点、牧之原市 1 地点における土壌の震災後の変動幅を示す。